

おりづる独占インタビュー

今年栃木県で初開催となった『キラキラ！カイゴ男子☆カイゴ女子コンテスト』。応募総数134名から厳選された男女各6名が、初代グランプリを目指し競い合った。本誌は見事栄冠を勝ち取った檜山尚幸氏のインタビューに成功。真面目で丁寧な言葉づかいで語られた、チャンピオンの声をお届けする。

—インタビュー・文 ナヲ・ヒヤマ

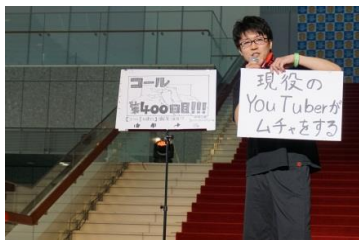


檜山尚幸(ひやまなおゆき)
1984年日光市生まれ。介護職員、生活相談員を経験し、現在はケアマネージャーとして活躍。大会場ですべっても折れないメンタルの硬さは、あずきバーをもしのぐという。

カイゴはシゴト。それだけを伝えたかった

▼まずはグランプリ獲得、おめでとうございます。
檜山 ハイハイどうもどうも。
▼これからインタビューをさせていただきます。よろしくお願ひします。
檜山 よろしくね。早速始めちゃおっか。オレの事はチャンピオンと呼んでいいよ。
▼。今回は、どのような意気込みで出場されましたか？
チャンピオン(以下チャン) 今の介護業界は、人手不足や虐待事件などの暗いニュースばかり。世間では悪いイメージが広がっているよね。真面目に働いているのに、周りからは嫌な仕事と思われることに耐えられなかったんだ。意気込みか。そうだね、「オレを含む、介護職員の現状を変えたい」。その一言に尽きるよね。
▼コンテストの雰囲気はいかがでしたか？
チャン 出場者は、みんなキラキラしてた。オレの想像を遙かに超えていた。介護のイメージアップだけを考へて今日のために仕上げて来た、そんなオラが全員の毛穴から垂れ流されてた。垂れ流してるところか、噴き出しているやつもいた。気を抜くとやられる。そんな雰囲気だったね。

▼では1次審査についてお聞きします。最初に階段をランウェイのように降りて行きましたが、会場には声援が飛んでいましたか？
チャン 途中でポーズをとるように指示されていて、オレは一所懸命にボケたんだ。会場にはBGMだけが聴こえていたよね。
▼ステージでの自己PRはいかがでしたか？
チャン このコンテストで自分の主張を伝えられる、1番の場所だと思った。今ここに立っているのは、オレじゃない。全ての介護職員の代表者なんだって。いう思いで喋ったよ。
▼どんな内容のスピーチを？
チャン オレが言いたかったのは、「カイゴは仕事であること。そして「利用者はおお客様であること。カイゴってのは、優しい人間が、ただお年寄りのお世話をしているのとはワケが違うんだよ。専門職として「お客様」を相手に「働いていること」をみんなにわかってほしかった。せいいっぱい伝えたい。いっばい唄んだよ。
▼2次審査についてお聞きします。特技披露として「将来の介護現場の問題点」というタイトルでしようもな。いや、笑いを交えたイラストネタをされましたね？(写真1)
チャン 出場が決まってから、何をしたらいいか必死に考えた。他県の大会の映像も何度も見たよ。スポーツだった。他県の人前で見せられる趣味なんか無いからさ。ステージで横になってマンガ読んでる。カイゴのコンテストなんだから、カイゴに興味を持ってもらえんのか？(笑)そこで思ったんだ。「カイゴのコンテストなんだから、カイゴに興味を持ってもらえんのか？(笑)そこで思ったんだ。別に笑いをとれなくても、誰かが「なんだアイツは？」って思ったら、その人は1ミリだけでもカイゴに近づいたことになるんじゃないか。考えてたんだ。「笑いをとれなくても」ってのは、負け惜しみじゃない。断じて負け惜しみじゃない。もう一度言おう。負け惜しみじゃないんだよ。



(写真1)早口すぎて、同時手話通訳の方に迷惑をかける檜山氏。

▼チャンピオンの寒い。いや、熱い思いが伝わっての受賞でした。受賞した瞬間の感想は？
チャン 準備グランプリで名前が呼ばれなかった瞬間、「あ、もうダメだ。職場のみんなに何で言えやばいのか。賞金獲ったら焼肉食べに行く話が勝手に決まられてたけど。残念会もオレの自腹なのかなあ」って思ってたよ。オレがグランプリだ！なんて自信は持てなかった。どなたか優しい4人がせーので辞退してくれたらどっちか獲れるくらいにしか思えないほど、他の出場者の輝きがとんでもなかったんだ。グランプリで自分の名前が呼ばれた時は、現実とは思えなかったよ。正直、そこからはよく覚えていないんだ。(笑)
▼お時間ありがとうございました。最後に読者に向けて一言お願いします。
檜山 尚幸 みなさんの応援のおかげで、初代グランプリを獲得する事ができました！ありがとうございます！これからも、真剣にカイゴの仕事のイメージアップに貢献していきたいと思ひます。



特別養護老人ホームおりづる
Tel: 0289-60-2265
住所: 栃木県鹿沼市茂呂1090-25